

☆年次総会特集

平成11年度活動方針決定
新役員を選出

☆友愛会解散「友愛連絡会」に

第55号 1999年7月1日

(平成7年3月17日第三種郵便物認可)

月刊

民社

発行 民社協会

編集発行人 小糸 勲
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目20番9号
和田ビル4階
TEL (03) 3501-5111 毎月1回1日発行
購読料 年間 2,000円
(会員の購読料は会費の中に含む)

民社協会年次総会

「協会を地方のよりどころに！」

民社協会の年次総会が6月5日に東京都内の友愛会館で開催され、協会の在り方などを巡って熱心な討議を行い、協会活動を今後とも継続していくことを確認した。出席者は代議員ほか150名を上回る超満員で会場は熱気に満ちた。

13時に安倍基雄常務理事の開会の挨拶から始まり、物故者への黙祷のあと、議長として東日本の小幡正雄代議員(神奈川)、西日本の高田巖代議員(兵庫)を選出した。

続いて、米沢隆会長が挨拶をし、「協会の存在に意味があるなら、それを最大限に活用しよう」と決意を表明した(詳細は別掲)。

来賓として挨拶をした堀江湛・政策研究フォーラム理事長は「命を懸けてやってきた火は大事に守って行かねばならない」と述べた。高木剛・友愛連絡会会長は「協会も連絡会も問題を抱えているが、熱い炎を燃やすもの同志、役割を果たして行きたい」と述べた。

また友愛会の事務局長を長期に亘って務めた山口義男氏が謝辞を述べた。

議事では、報告事項として、平成10年度活動報告を梅澤



「共通の思い」を胸に、ガンバロウ三唱

昇平事務局長が、統一地方選挙報告を伊藤郁男理事が、平成10年度会計報告を小糸勲事務局次長が、会計監査報告を水木芳徳監事が、それぞれ行った。

引き続き、提案事項として、平成11年度活動方針案を梅澤事務局長が、同予算案を小糸事務局次長が、提案した。

(次頁につづく)

総会での米沢会長挨拶要旨

2月に予定の総会は、友愛会の動向を見極めて開催するというので、本日の開催になった。本日は、ご来賓として、新しくできた友愛連絡会の高木会長、政策研究フォーラムの堀江理事長、大変お世話になった友愛会の山口事務局長にもお越し願ひ、感謝したい。

先の統一地方選挙では全国で795名の同志が闘い、39名増の好成績を上げた。その結果、中間選挙分も含め、協会系の地方議員は938名になった。皆さんのご努力に感謝したい。

これは友愛会の皆さんと連帯した闘いの成果である。その意味で、今回友愛会が解散したことは残念である。しかし幸にも今後、友愛連絡会という組織を残していただくことになった。われわれは、この友愛連絡会との中央・地方での提携を密にして行かねばならない。その意味で先般、友愛連絡会の首脳の方々と協会幹部が第一回の懇談会を開催した。今後とも提携を深めていきたい。

この両三年を見ても、政治の流れはなお流動的といわざるをえない。協会の在り方、存続についてもいろんな意見があり、これまでも協議を重ねてきた。強化論もある。こうした組織は一旦解消すればもはや再建することは不可能である。そこで、役員会、理事会などにも諮ったが、協会の存続に意味があるなら、それを最大限活用し、当面なお存続させる、しかし財政的には厳しいので、本部の運営は効率的、弾力的にし、必要に応じてそのつど協議していくことになった。

その方針にたつて活動方針などを提案しているが、皆さんと率直な意見交換をし、共通の思いを確認したい。

